

昨年は、4月から米国の関税措置が施行されましたが、直接的な影響は限定的なものでした。賃上げ影響もありましたが、企業業績は改善傾向です。一方で10月の新内閣発足以降、円安が進行したことで、生活者の消費マインドの後退感が高まっている状況と言えます。

景気の先行きが不透明な中ではありますが、業界再編が加速している印象です。

こうした

中、当社では環境配慮型商品の開発や提案をいち早く進めてきたことの成果が出はじめたのではないかと思います。特に

大きな話題として、環境配慮型商品の「ペーパーフードトレイ」と業界に先駆けた「PFAS（フッ素化合物）フリー耐油袋」が2025年度グッドデザイン賞を受賞しました。大手スーパーマーケットでも採用され、問い合わせも多く、好評です。

ザイセンターとしての役割を期待しています。物流戦略は、今年4月以降に第2フェーズとなる中期経営計画の中でも重要課題の1つとして捉えています。11月には、浅草橋本店7階に店舗一体型ショールームを開設しました。一般利用者も自由に見学が

発展に期待しています。2月にはCDP（Carbon Disclosure Project）気候変動評価において、「B」スコアを取得しました。当社の環境への取り組みが、外部から認められたことは、とても誇らしく思います。5月には、経済

件に挑戦していきたいと考えています。3月までの中期経営計画の結果を踏まえ、2030年までの新たな経営計画を発表する予定です。私の夢としている「従業員が生き生きと働ける会社」を具現化するための第1歩を踏み出す1年にしていきたいと思います。

環境配慮型商品の需要拡大

夢の具現化へ踏み出す年に



シモジマ
代表取締役社長

笠井 義彦氏

そのほか1月には、札幌市の大倉産業を子会社化しました。グループ全体の企業価値向上と

昨年同様、今年の景況感については不透明さが続きます。業績は堅調に推移しておりますが、過信することなく慎重に事業を推進しながら、さまざまな案

物流最適化の施策として、兵庫県に新配送センターの建設を発表しました。2028年6月竣工予定です。西日本のマ

可能なオープンスペースと多種多様な特注品をメインに取り扱う完全予約制のクロススペースを設け、要望に迅速かつ的確に対応できる体制を整えました。

産業省が定める「DX認定事業者」を取得しました。長らく、アナログな企業のイメージがあった当社が選ばれたことは、大きな転換点です。

環境に配慮した包装資材の需要は、今後も高まる見込みです。当社ではコロナ禍以降、ディーラーやユーザーに向け年間300回近く勉強会を実施し、理解促進に努めています。「環境対応ならシモジマへ」というブランド確立を目指し、今年も持続可能な社会に貢献する姿勢です。